

学習指導案（国語科）

- 1 対象 第1学年5組
- 2 日時 1年5組 令和2年9月19日（土）4限
- 3 場所 1年5組教室
- 4 単元名 評論（一） 視野を広げて 「水の東西」
- 5 単元について

(1) 単元の目標

- ・文章の構成に注目し、筆者の考えを読み取れるようにする。
- ・日本と西洋の文化の違いを筆者の捉え方から理解する。
- ・自分の意見をまとめ、発表することができる。

(2) 教材観

本文は、難解な表現が少ない上に、具体から抽象へと論を展開しているため、読みやすい文章であると言える。筆者は、日本人の水に対する感じ方の典型として「鹿おどし」を取り上げ、また、西洋人に対しては水の芸術である「噴水」を取り上げて、これらの相違点を考えることにより、日本人の感性について述べている。水に対する感じ方以外に、日本と海外との文化の違いについて考えるきっかけになる教材であると言える。

(3) 生徒観

個別で会話する分には打ち解けているが、いざ人前に立って発表する際にはおとなしい生徒が多い。しかし、休み時間になると気軽に話しかけて来る生徒がいるため、授業中でも発表の際には緊張感を少しでも取り除くことができればよいと考えている。

(4) 指導観

日本と海外（今回は西洋）の文化を比較することで、日本人の価値観を改めて学び、他文化の価値観に触れるような指導を意識する。本文全体の対比構造からならば読み取りやすいが、最終段落にある筆者の主張のみに捉われすぎると読み取りにくくなると考えている。従って、各段落の内容把握を丁寧に指導していきたい。また、生徒たちが分かりやすいと思い、授業に興味を持ち、積極的に発言できるような指導を心がけていきたい。

6 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none">・日本と海外の文化の違いに関心を持ち、理解しようとしている。・具体例→抽象化による表現に説得力があることを理解する。	<ul style="list-style-type: none">・筆者の主張を本文の構成から読み取ることができる。・「鹿おどし」と「噴水」の特徴を理解しながら読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none">・本文に出てくる分からない語彙を調べ、学び、理解する。・個人の意見を相手が理解できるように発表する。

7 単元の指導計画（総時数5時間）（単元目標を達成するための指導計画を示す。）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価の観点)
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の音読 ○語句調べ <ul style="list-style-type: none"> ・意味調べはChromebookを用いて個人で調べる。 ・個人的に分からない単語があれば、ピックアップする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読めない単語があり、詰まった際には手助けをする。 ・次回からスムーズに取り組めるように題名から二項対立が読み取れることを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な姿勢で語句調べに取り組んでいる。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○形式段落1～2 <ul style="list-style-type: none"> ・鹿おどしの特徴を掴む。 ・なにが「愛嬌」と「人生のけだるさ」を表しているのか、鹿おどしの仕掛けは何を強調しているのかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「鹿おどし」の特徴を掴ませる。 ・「鹿おどし」の仕掛けが水や時の流れから流れてやまないものを強調していることを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿おどしについて積極的に理解しようとしている。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○前回の続き ○形式段落3～6 <ul style="list-style-type: none"> ・日本人と西洋人の水の感じ方の違いが二項対立になっていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図や写真を用いて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の違いによる感じ方の違いを本文の構成から読み取る。・具体例→抽象化の表現方法から筆者の主張を正しく読み取る。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○前回の続き ○形式段落7～10 <ul style="list-style-type: none"> ・日本と西洋の相違から水の感じ方の違いを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人と西洋人による水の感じ方の一つを4段落にかけて説明されているため、日本と西洋の違いを明確にした上で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの二項対立の違いを理解し、筆者の主張を読み取る。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○前回の続き ○形式段落11 <ul style="list-style-type: none"> ・今までの本文から日本人は水を見なくとも感じられることを理解する。 ・鹿おどしが水の鑑賞の極致の仕掛けを表していることを理解する。 ○「日本」と「西洋」の二項対立から様々な二項対立を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの内容を踏まえた上で説明する。（ポイントとなるところをスライドにまとめる。） ・「日本」と「西洋」だけでなく、「東日本」や「西日本」など様々な二項対立を取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に周りの二項対立を見つけ出そうとしている。

8 本時案

(1) 本時の目標

- ・日本の「噴水」の捉え方を理解する。
- ・日本人独特の好み為何なのかを理解する。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価 (評価の観点、方法)
導入	○前回の続きから ニューヨークでの「鹿おどし」、時間的な水、空間的な水が何を表しているのかをノートを見ながら答え、復習する。	・復習の際、ニューヨークでの「鹿おどし」、時間的な水、空間的な水が何を表しているのかを生徒に当て、答えさせる。	
展開	○形式段落7～10まで ●日本の「噴水」の捉え方 ・日本の伝統のなかで「噴水」が少ないのはなぜか理解する。 ・現代の都会の噴水が、西洋に比べ、美しくないことから「間が抜けて、表情に乏しい」ことを理解する。 ・接続詞「だが」の使い方を復習する。 ・外面的事情が何なのを読み取る。 ・日本人が噴水を作らなかった理由を読み取る。 ●日本人独特の好みについて ・日本人の感性を理解する。 ●見えない水と、目に見える水がそれぞれ何を表しているかを理解する。	・水を見ることを好んでいた日本人が、噴水の美を忘れていたことを説明する。 ・西洋と日本2つの写真を掲示し、場所による噴水の見え方を説明する。 ・前回も同じ接続詞を取り上げているため、復習も踏まえ、簡易的に説明する。 ・外面的事情が「空気が乾いている」、「水道技術の発達」であることを説明する。 ・西洋が噴水を作った理由をあげ、日本人が作らなかった理由を比較し、読み取らせる。 ・日本人が噴水を作らなかった理由を説明する。 →水が造型する対象ではなかったこと ・日本人独特の好みを説明する。 →形なきものを恐れない心の表れ ・見えない水 →鹿おどし 造型の対象ではない ・目に見える水 →噴水 水の芸術、壮大な水の造型	・噴水を忘れていたため、伝統のなかに入らなかったことを理解している。 ・接続詞の使い方を理解している。 ・言い換えられている表現を理解している。 ・日本人が作らなかった理由を理解している。 ・見えない水と目に見える水のそれぞれが表している対象は何か、また、なぜその対象になるのかを理解している。
まとめ	○本時の復習 ○次回予告	・形式段落11で「鹿おどし」の極致を表す仕掛けについて書かれていることを予告する。	